

母の 698 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

子どものそばにある短歌③／千葉聡 2

作家と画家がであうとき② 「がたごとがたごと」／西村繁男 3

コロナ禍で疲弊する子ども達の心／榎屋二郎 4

『みんなのためいき図鑑』インタビュー／村上しいこ 6

新刊紹介／俵万智、服部千春 7

イラスト／井上コトリ



「落語紙芝居」フォーエバー

桂文我

……

噺家になり、40年以上経ち、その間、絵本作家の方々と出会う機会も多く、落語絵本も数多く刊行することができました。そのキッカケは三重県四日市市の子どもの本の専門店「メリーゴーランド」の店主・増田喜昭氏の勧めで、親子で楽しむ落語会「おやこ寄席」を開催したことが大きく、小学校での公演も頻繁になりました。

しかし、約2時間近く、落語を楽しんでいただくためには、どうしても子どもの年齢制限をしなければならず、小学生未満は入場を控えていただくことになり、幼稚園・保育園の公演も引き受けないことに決めざるを得なくなったのです。「幼稚園児ですが、文我さんのCDを聞いて笑っていますから、大丈夫です！」という意見をいただいても、この基準を弛めることはできず、心苦しく思うことも度々でした。

その時、助け船になったのが「落語紙芝居」で、幼稚園や保育園から依頼があっても、落語紙芝居の上演なら落語の面白さを伝えることができると思い、最初は恐る恐る演ってみると、大きな笑いの反応や、幼稚園児・保育園児の集中力を感じることができたのです。頭の中で想像（創造も）しながら、一定の時間、芸を楽しむことは難しくても、絵の世界の力を借り、物語の面白さを伝えることは可能と気づきましたし、幼い子ども達に笑いの火が灯ると、良い意味で類焼し、笑いの輪が燃え広がる現実を、目の当たりにしました。

有難いことに、落語紙芝居は好評で数を増やし、この7月には『どうぶつえん』が刊行されますが、このネタはヨーロッパの笑い話が原話であり、子どもにも受け入れやすい内容になっています。

そして、8月27日（土）から、横浜にぎわい座で、久しぶりに「おやこ寄席」を開催し、この落語を上演することが決定しましたので、実際の落語の高座に接し、同じネタでも紙芝居と落語の違いや共通点を感じていただければ幸いですし、人気絵本作家・長野ヒデ子さんにも、「絵本の世界へいらっしゃい！」というトークコーナーに参加していただきますので、どうぞ、宜しくお越し下さいませ。

絵本や紙芝居は、年齢を超越した世界が提供できるだけに、もっともっと、子どもに限らず、大人も接していただきたいと思っています。

（かつら ぶんが／落語家）

子どものそばに ある短歌

3

—— 手のひらは知っている 千葉聡

夕立ちに子どものあたま濡れさせて役に立たない手のひらだった

山崎聡子『青い舌』

子育ての日々は、自分と向き合う時間。

「この子とわたしはよく似ている」と思ったり、「わたしの思いはこの子に通じているのかな」と悩んだり、「わたしはこの子をちゃんと守れているのかな」と考えこんだり。

親子でお出かけした日、夕立に見舞われました。「はやく！」と子を急かせ、お店の前の小さな庇^{ひさし}に入ったけれど、二人ともずぶ濡れになりました。傘を持ってくればよかった。せめて大きめのハンカチかタオルがあればよかった。この子の頭に置いたわたしの手のひらは、全然、役に立たなかった。

いえいえ、手のひらは大活躍したんですよ。頭に置かれた手のおかげで、お子さんは、「どんなときも、親は自分を守ろうとしてくれるんだ」と知ったのです。手のひらは知っています。子どもの頭があたたかいことを。そのぬくもりを守るために、あなたは頑張ったのです。

気がつけば、ほら、雨はやみましたよ。

ちば さとし 1968年生まれ。歌人・高校教諭。著書に『短歌は最強アイテム』（岩波ジュニア新書）、『グラウンドを駆けるモーツァルト』（角川書店）などがある。

作家と画家が であうとき ②

『がたごと がたごと』

(右) 内田麟太郎・文／西村繁男・絵 1999年4月刊行
(左) 『がたごと がたごと』と
同じ電車の続編『たたたん た
たたん』は、20年を経た2019
年に刊行されました。



拝啓 内田麟太郎様

想像力、妄想力が

湧いてくる

内田テキスト

西村繁男

お手紙ありがとうございました。

私は実のところ作者の書いたテキストに絵を付けるのは苦手なのです。相手の土俵ではなかなか本領を発揮できないことが多いのです。内田さんとの場合はそんなことはなく、自ずとああしよう、こうしようという気持ちが湧いてきます。内田さんの思っていることを越え、こう来たかと驚かせたい、そして面白がってもらいたい。そんな気持ちの絵本作りはとても楽しいものでした。

内田さんは『がたごと がたごと』誕生譚として、お酒が文化を生むと面白く話されます。内田さんは飲めないお酒を飲んで、看板屋さんの仕事で、台から落ちて背骨を痛めたため絵本を作るようになります。私は木葉井悦子さんを偲ぶ会でお酒を飲んでいたので内田さんと一緒に帰る電車で「ぼくにも絵本の話を書いてよ」と軽い気持ちで言ったのです。お酒はこのような文化を生むという話です。確かにあの時いいタイミングで内

田・西村コンビが誕生しました。一週間もしないうちに内田さんのテキストが届いたのです。軽く頼んだものがこんなにも早く届くなんて、内田さん本気だぞと感激しました。出版社依頼の絵本でないのに締め切りはなく、他の仕事だったこともあって本棚でしばらく眠らせた後ようやく取り掛かりました。このテキストには最初内田テキスト独特のト書が書かれてなく、どうイメージお膨らませればいいのか戸惑い、その旨伝えたら「失礼しました」とト書が届きました。内田さんのト書は余計なものはなく、簡潔に場面設定が書かれていて、場面によっては画家一任となっていたりユーモアがあり味わい深いものです。こちらの想像力、妄想力もこんこん湧いてきます。

童心社から出版され少したった頃、編集者から「内田さんが次のを書いてくれました」と『おぼけでんしゃ』が渡されました。私は次のことなどまだ考えてなかったのに、内田さんのこの早さに驚き嬉しくなりました。『おぼけでんしゃ』の後に『むしむしでんしゃ』が続きました。『むしむしでんしゃ』ができた時、内田さんからの手紙には「でんしゃ絵本千秋楽を迎えました」と書かれていました。寂しい気持ちになりましたが、心配ご無用『がたごと がたごと』の電車は『たたたんたたん』として走ることができました。

(にしむら しげお／絵本作家)

コロナ禍における メンタルヘルス

二〇二〇年より顕在化した新型コロナウイルス問題は見通しのないまま続き、社会や我々の生活に大きな影響を与え続けています。経済面やメンタルヘルス面における負の影響がクローズアップされ

ることとなり、「コロナ禍」という言葉も生まれました。メンタルヘルスについては、国連が早い段階で感染拡大状況でのストレスによる「うつ病や自殺の増加」について警告していましたが、世界的にも警告は現実のものとなり、日本においても二〇二〇年の自殺者は前年比九百十二人増の二万二千八十一人となりました。「リーマンショック」での増加以

コロナ禍で 疲弊する 子ども達の心



イラスト／井上コトリ

梶屋二郎

(ますや じろう)

児童精神科医。東京医科大学精神医学分野准教授、東京医科大学病院こどものこころ診療部門、ふくしま子どもの心のケアセンター顧問。著書に『いじめ防止対策と子どもの権利』（編著／かもがわ出版）『被災地の子どもたちのこころケア：東日本大震災のケースからみる支援の実践』（共著／中央法規出版）などがある。

降、十年以上に渡って日本では自殺者が減少していた中で増加に転じたのです。

年間二万一千八十一人ということは、平均すると日本では毎日毎日、約五十八名もの人々が自殺で亡くなっているということです。二〇二一年はというと、二〇二〇年に比べて自殺者数は微減したもののコロナ禍前に比べると高止まりしている状況です。今回の自殺の増加で特に顕著であったのは女性と児童思春期の子どもの自殺の増加が際立っていたことでした。子ども達に關して言えば、二〇二〇年の小・中・高の児童生徒の自殺者数は、警察庁統計で四百九十九名と過去最大の自殺者数を記録しました。

子ども達への影響

コロナ禍において普及した用語は多く生まれましたが「ステイホーム」と「ソーシャルディスタンス」はその代表的なものと思います。感染予防の観点から言えば、この二つの重要性は言いつまでもありませんが、メンタルヘルスの観点からは、他者とのつながりを希薄化し、ストレスがたまりやすく発散しにくい、

という負の側面が現れてきます。例えばDVや児童虐待の件数は明らかに増加したことが分かっています。学校でも二〇二〇年度は当初から長期間の休校を余儀なくされましたが、その背景では、多くの人々がコロナ禍によって経済的ダメージを受けていました。このことは「子ども家庭の貧困格差の拡大」を引き起こし、貧困化した家庭での精神的負荷を増大させたと考えられています。またこの状況は「学習格差の増大」も生じさせました。家計に余裕のある家庭ではオンラインやタブレット学習、通塾などを活用し、学習水準の向上を図れた一方、休校中ほとんど勉強ができなかった子ども達も居り、学校授業が無い中で学習格差は増大しました。また、外出や娯楽が制限される中、ネットやゲームへの依存傾向、睡眠リズムの乱れが増大したことも分かっています。このような状況で登校再開以降、学習格差とその苦悩が生じたことは想像に難くありません。そしてステイホームの影響で増加したDVや児童虐待などの被害に遭った子ども達が受けた心の傷は計り知れません。いじめ被害についても、休校によってリアルないじめが減少した反面、ネット上でのいじめは大幅に増加したことが分かっています。そして登校

再開後も黙食での給食を求められるなど「ソーシャルディスタンスや私語抑制」が徹底され、コミュニケーションの絶対量が減少し、コミュニケーションに苦手を抱える子ども達は一層、友人の輪に入らず孤立化し、所属感（自分が誰かとつながっている感覚、自分が周囲に必要とされている感覚）が希薄化していったのです。

所属感を低下させて孤独化し、周囲にSOSを出せなかったり、何とか出せても力になってもらえなかったりすると、無力感や絶望を感じるようになります。また、虐待やいじめを受けたり、過度に叱責されると、トラウマ反応としての自己認知が歪み、「自分には価値がない」、「自分なんか居ない方がよい」といった自己否定感情が強まります。辛い状況の中で絶望や怒りの感情が生じるものの、状況の改善が無い中で、それをつまなく発散も解決もできず、時として攻撃性が自身に向かってしまふのです。辛さを何とかしたいがための自傷などが増加することもあります。そして「辛い状況は解決せず永遠に続くのだ」と考えるようになり、その状況から抜け出すために「自殺以外に解決策はない」と考えるようになるのです。

子ども達の自殺を止めるために

自殺と不登校には密接な関係があることが分かっています。つまり「不登校を選択できない子ども達が自殺に追い込まれている」という図式があるのです。「強い登校刺激はしないで下さい」とよく言われるのは自殺予防のためでもあるのです。状況が悪くなると、子ども達はSOSをもっと出せなくなります。わたし達は、子ども達の非言語的なSOSを見逃さないように、行動・言動・表情などに注意を払うべきだと思っています。子ども達の辛い状況に「気づき」、「声かけ」して「傾聴」し、必要に応じて専門家に「つなぎ」、その後も「見守り」を続けられる人材をゲートキーパーと呼びます。わたし達が皆、ゲートキーパーになれるように、そしてもし、子ども達が「消えてしまいたい」とか「辛い」と言ってくれたなら、受け流さず、言ってくれたことを労い、味方であることを伝え、安心安全な環境を作ってあげ、訴えを傾聴してあげて下さい。それは自殺予防につながるのです。

子

どもたちの「放課後児童クラブ」(学童保育)へ見学に行かせてもらったのが、本作のきっかけでした。その中に、ためいきをついている子がいて、私は「あれっ？」と思いました。私の中に、時代が変わっても、子どもたちは、元気なものという、固定観念がありました。

「どうしたの？」って聞くと、「宿題が、多すぎる！」って言うんですね。「まだ習ってないのに、宿題に出された」とか、「オンライン授業だと、先生に質問しても、無視される」とか、他にもいろいろあるんですね。そうした子どもたちのためいきに、返す言葉がみつからなかったんです。

数年前から、「環境問題」「貧困」「高齢化問題」「原発の問題」「戦争」と、社会的なテーマを含んだ児童書が増えてきました。「さあ、子どもたちよ、考えてくれ！」とばかりに。私も頑張って書いてきました。でもそれって、本当に良かったのかなと、一度立ち止まって、本来の児童文学って何なのか、考えるきっかけになりました。

いま、目の前のためいきをついている子どもたちに、どうすれば向き合っていくことができるのか、どうすれば寄り添うことができるのか、どうすれば子どもたちの気持ちにもう少し近づけるか考えた時に、ためいきを擬人化してお話を書いて、そうした子どもたちの気持ちにふれる作品にできたらと思いました。子どもたちには、まず、たくさんの言葉を知ってほしいし、その言葉を自分のものにしてほしい。言葉が増えるということは、それだけ考える選択肢だとか、自分がやりたいことを考え、気持ちの整理を

『みんなのためいき図鑑』 インタビュー

村上しいこ

昨年刊行された『みんなのためいき図鑑』が、
本年度の青少年読書感想文全国コンクールの課題図書
(小学校中学年の部)に選ばれました。
本作について、著者の村上しいこさんにお話を伺いました。



みんなの ためいき図鑑

村上しいこ／作
中田いくみ／絵
定価1320円
(本体価格1200円＋税10%)

つける選択肢が増えるということです。それは今を乗り越えて、成長していく力になります。
特に、三、四年生は、感情や気持ちの、心の枝葉が伸びていく時期だと思います。この時期により多くの言葉や感情にふれることがすごく大事だと思っています。

その意味で、『みんなのためいき図鑑』の中にはいろいろな気持ちを抱えた子どもたちが登場しています。たくさん言葉を知って使えるほうが、ひとに共感することができると、自分の気持ちを伝えることができます。いろいろな気持ちをこの作品を読んで疑似体験してくれたらいいなって思っています。



★インタビュー全文はこちらからご覧いただけます。

<https://www.doshinsha.co.jp/news/detail.php?id=2707>

BOOK

『かたつむりの でんでんちゃん うまれたよ!』『かぶとむしの ぶんぶんちゃん うまれたよ!』に続くシリーズ3作目。虫たちの日常と人生（虫生?）が豊かに、わかりやすく描かれている。絵もストーリーも、図鑑並みの細やかさを備えつつ、お話としての温もりがあるのが魅力だ。子どもたちはきっと、虫の一生を疑似体験して楽しむことだろう。

大人の小説などと違い、繰り返し読むことは、絵本の大きな特徴だ。その「繰り返し」が、うまれたよシリーズでは特に生かされていると感じる。『とんぼの ぎんちゃん うまれたよ!』の最後のページであかちゃんが誕生し、そしてまた最初のページに戻るとき、命とはこのように繰り返されていくことなのだなあと自然に実感される。

ところで、ぎんちゃんの性別を、なんとなく私は決めてかかって読みはじめたのだが、途中で自分の思いこみに気づきハッとさせられた。シリーズのスタートにあたり、でんでんむし（オスとメスの区別がない）とカブトムシ（見た目からしてオスとメスの区別がはっきり）が選ばれているのは偶然ではないはずだ。虫から学ぶ多様性……などと言うと堅苦しいが、ことさらに描かれているところがいい。心が柔らかかなうちに、当たり前のこととして生き物の多様な側面に触れるのは、とても大事だと思う。

（たわら まち／歌人）



とんぼの ぎんちゃん
うまれたよ!

ねもとまゆみ／作
たけがみたえ／絵
須田研司／監修
定価1430円
（本体1300円＋税10%）

虫から学ぶ豊かな世界

俵万智

勇者に、拍手!



ぼくは勇者を
たすけたい

中松まるは／作
めばち／絵
定価1430円
（本体1300円＋税10%）

服部千春

時にはゲームに興じたりするものの、ことオンラインゲームに関しては認識度レベル1以下。「こんな私でいいのかな?」と申し訳なく思った私でも、すんなりと作品世界に入り、物語を楽しませてもらいました。

主人公の「ぼく」は、塾のオンライン授業からPCを日常とし、オンラインゲームもするようになります。現実世界では本当の友だちを持っていないという「ぼく」が、ゲームの中では女子キャラになり、パーティ仲間の「勇者」と仲良くなります。その「勇者」も、ゲームの中ではチャットのフキダシでとてもよくおしゃべりするのだけれど、現実世界では実は……。 「ぼく」はあることにより、「勇者」が本当は身近な誰かなのでは?と気づきます。ゲーム世界と大切な現実とが重なり合って、物語と「ぼく」と「勇者」の関係が深まっていきます。相手に関心を寄せ心を開くことで、それまで気づこうとせず見えなかったものが見えてくるのです。

オンラインゲームにはまる人たちに警鐘を鳴らす物語かと思いきや、なんと深い、小さな恋の物語となっていき、最後は「ぼく」と「勇者」に拍手を送りたい気持ちになりました。

コロナ禍でより日常のデジタル化が進む現在、否応なくそれを享受する子どもたちにも大人にも、読んでほしいと思う作品でした。

（はっとり ちはる／童話作家）

BOOK

7月の新刊図書＆紙芝居！

かみしばい
世界の
名作劇場

時代をこえて語り継がれる世界の名作。幼稚園や保育園の劇で取り上げられることも多いこれらの作品を、迫力満点の紙芝居をご覧ください。

アラジンとまほうのランプ

津田真一／脚本
長野ヒデ子／絵 16場面



3びきのくま

はせがわさとみ／脚本
和歌山静子／絵 12場面



くるみわり人形

あべしまこ／脚本
吉田尚令／絵 12場面



きんのがちょう

かわしまえつこ／脚本
市居みか／絵 12場面



きたかぜとたいよう

こがようこ／脚本
長谷川義史／絵 8場面



きんのおのぎんのおの

やえがしなおこ／脚本
スズキコージ／絵 8場面



全6巻セット定価11190円（本体10900円＋税10%）
16場面 定価2420円（本体2200円＋税10%）
12場面 各定価2090円（本体1900円＋税10%）
8場面 各定価1650円（本体1500円＋税10%）

前向き、明るい話で元気ができました。ただ現実、こくなるまで家族・周囲はたいへんだらうな…和子先生をこのように描いて下さり、ありがとうございます。「真由」という存在、ひまりのもっている力、それがよい方に出るよう応援する家族、すべてがうまくまわっています。深雪先生にも、なにか事情があるように感じられます。小学校養護教諭の方にも、おすすめしたい一冊です。

（広島県 K・K）



単行本図書
ひまりのすてき時間割
井嶋敦子／作 丸山ゆき／絵
定価1430円（本体1300円＋税10%）

読者の声

はんぴりり！[増補新版]

⑥妖怪たちの大運動会

廣嶋玲子／作
九猫あざみ／絵

定価990円（本体900円＋税10%）



鈴音丸と武のもとに妖怪たちの運動会への招待状がとどきました。気まぐれ玉集めに、空中合戦？どんな運動会なのでしょう？

2022年7月15日発行（毎月刊）
母のひろば 第698号
定価50円（年600円／送料とも）

発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03(5976)4181
03(5976)4402（編集）
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン：坂本梓 ロゴ：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円（送料とも）。



あとがき

●『みんなのためいき図鑑』の作者、村上しいこさんの——いま、目の前のためいきをついている子どもたちに、どうすれば向き合うことができるのか。そうした子どもたちの気持ちにふれる作品を書きたい——という思いは私たち編集者も変わりません。夏休みになりますが、平和で災害にも見舞われず子どもたちが豊かな体験（読書も）をしてくれるよう願います。◎

●観測史上最速の梅雨明けとともに、猛暑の日々が続いています。年々春や秋が短くなっている実感はありますが、梅雨までもあつという間に過ぎ去ると、いよいよ気候変動が深刻化しているように感じます。子どもの本にかかわる大人として、近年広まる「気候正義(Climate Justice)」の考えにもしっかりと向き合い、未来に備えなければと思っています。㊞